

第2回京都大学 BINDS 合同シンポジウム ボーダーレス創薬：未来を拓く協創の力 開催趣意書

1. 会議名称 ボーダーレス創薬：未来を拓く協創の力
2. 会 期 2025 年 10 月 21 日（火）1 日間
3. 会 場 京都大学 大学院薬学研究科 藤多記念ホール（京都府京都市左京区）

4. 会の性格、目的および意義

コロナ禍の経験によって、世界の創薬の潮流は目覚ましい変貌を遂げようとしており、創薬科学は、医学・薬学はもとより、生命科学、情報科学、人工知能、構造科学などを複合したボーダーレスな時代に突入したと言えます。こうした変化に逸早く対応し斬新なアイデアを育てるために、アカデミア創薬に関わる研究者が、大学や専門分野の枠を超えて協力し合うことが、ますます重要になっています。

AMED「生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）」では、参画機関の最先端技術を全国の研究者に提供しています。京都大学では本学の総合大学としての多様な研究を背景に、京都大学南西地区構内に位置するライフサイエンス系5部局（医学研究科、生命科学研究科、薬学研究科、医生物学研究所、高等研究院 ASHBi）が連携、BINDSの支援の元、設備サポート拠点「医学・生命科学研究支援機構（iSAL, Innovative Support Alliance for Life Science）」を運営しています。iSALでは研究背景の垣根を超えたオープンイノベーション推進の一助として、上記5部局のもつ最先端の機器や解析技術を活用、学内外の研究者に世界最高レベルの研究支援を実施しています。しかしながら、世界的な変化に対応し、アカデミア創薬を発展させるためには、大学や分野の垣根を超えたさらなる支援連携が必要です。

2023年の第一回シンポジウム開催に引き続き、各種研究支援体制の活用による産学の垣根を超えた「ボーダーレス創薬」体制の構築の場となることを目指し、2025年10月21日に再び京都大学のBINDS採択4拠点が共同して表題シンポジウムを開催します。本学 BINDS 支援成果および他機関 BINDS との連携による成果の発表、及び西日本 BINDS 支援機関やその他研究支援体制の紹介などを予定していますので、アカデミア創薬を志す皆様のご参加をお待ちしています。

5. 会議計画の概要

- 1) 主催：京都大学 大学院医学研究科、薬学研究科、高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi)
- 2) 関連事業：生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）
- 3) 会議の構成：招待講演及びポスター等による支援事業紹介
- 4) 会議使用語：日本語
- 5) 参加予定者数 150 名
- 6) 会議予稿集の刊行：すべての招待講演の要旨を収録した予稿集を会議の際に発行する。
- 7) 会議後交流会を開催予定（無料）

シンポジウム運営委員会

ヒット化合物創出ユニット 萩原正敏

（京都大学 大学院医学研究科 特任教授）

モダリティ探索ユニット 竹本佳司

（京都大学 大学院医学研究科 教授）

構造解析ユニット 岩田 想

（京都大学 大学院医学研究科/生命科学研究科 教授）

発現・機能解析ユニット 辻村太郎

（京都大学 高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) 特定講師）

本シンポジウムに関するお問い合わせ先

京都大学 BINDS シンポジウム事務局

E-mail : ku-binds-symposium-office@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp